



超低汚染形ターペン可溶2液形アクリルシリコン樹脂クリヤー

ファイン プールシステム

ニッペ ファインシリコンフレッシュクリヤー
ニッペ ファインプールコート
ニッペ ファインプールガード

JIS A 6909 耐候形1種相当品

放散等級
区分表示

F☆☆☆☆

居室内外での使用面積制限はありません

ハイブリッド架橋による
コンクリート生地肌仕上げ

FINE SILICONE FRESH CLEAR
FINE PURE COAT
FINE PURE GUARD

ぬれ肌
防止

超低汚染

高耐候

FINE PURE SYSTEM
NIPPON PAINT CO.,LTD.

FINE SILICONE FRESH CLEAR
FINE PURE COAT
FINE PURE GUARD



ファインプーレシステム

超低汚染形ターペン可溶2液形アクリルシリコン樹脂クリヤー

ニッペファインシリコンフレッシュクリヤー
ニッペファインプーレコート
ニッペファインプーレガード

特長

- #### 1 コンクリートの素材感を生かした仕上げが可能

素材のぬれ肌が防止でき、コンクリートの仕上がりが外観そのままの仕上げになります。生地の素材感を長期に維持し美しい仕上げが得られます。
- #### 2 中性化防止、エフロレッセンス・塩害防止

防水性が高く、コンクリートの中性を抑制します。また、エフロレッセンスの発生を抑制し、塩害からコンクリートを保護します。
- #### 3 高耐候性・超低汚染性

強固なシロキサン結合によって架橋するため、光沢低下や変色が極めて少なく高耐候性を発揮します。また、特殊セラミック成分による親水化技術がすぐれた低汚染性を実現します。
- #### 4 オール弱溶剤形システムで環境に優しい

弱溶剤系であるため臭気がマイルドです。鉛などの重金属、ホルムアルデヒド、クロルピリホスを配合していません。
- #### 5 防藻・防かび性、透湿性

藻・かびの発生を抑制します。透湿性が高く、結露から建物をまもります。

ファインプーレシステムのメカニズム



ファインプレーシステム標準塗装仕様(生地仕上げ)

■新設コンクリート面 生地仕上げ

工程	塗料名	塗り回数	使用量 kg/m ² /回	塗り重ね 乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
素地調整	よごれ、ほこりなど付着物を除去し、乾燥した清浄な面とする。(一般の下地調整材による補修やサンダーがけは原則としてできません。)						
はっ水処理	ニッペファインブルーガード (ターペン可溶特殊シラン系はっ水剤)	1	0.16~0.20	16時間以上	無希釈	—	ウールローラー エアレススプレー
下塗り	ニッペファインブルーコート (ターペン可溶シリコン樹脂クリヤー塗料)	1	0.12~0.15	4時間以上	塗料用シンナーA	30~40	エアスプレー
上塗り	ニッペファインシリコンフレッシュクリヤー (つや有り~つや消し・カラークリヤー)	1	0.12~0.14	—	塗料用シンナーA	20~40	エアスプレー*

注)上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります。)

- ニッペファインブルーコートやニッペファインシリコンフレッシュクリヤーをローラーにて塗装する場合、つやむら、つやの上昇が発生する場合があります。あらかじめ試験塗装を実施し、仕上がりをご確認ください。さらに、ローラーは短毛ローラーにて塗装し、塗装時の希釈率は「0~10%」で塗装してください。(基本的にスプレーでの塗装をおすすめします。)

■経年コンクリート面(旧塗膜あり)生地仕上げ

工程	塗料名	塗り回数	使用量 kg/m ² /回	塗り重ね 乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
水洗い	高圧洗浄し、浮き塗膜などは除去し、乾燥した清浄な面とする。						
中塗り	ニッペファインシリコンフレッシュクリヤー (つや有り)	1	0.12~0.14	4時間以上	塗料用シンナーA	20~40	エアスプレー
上塗り	ニッペファインシリコンフレッシュクリヤー (つや有り~つや消し・カラークリヤー)	1	0.12~0.14	—	塗料用シンナーA	20~40	エアスプレー*

注)上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります。)

- ニッペファインシリコンフレッシュクリヤーをローラーにて塗装する場合、つやむら、つやの上昇が発生する場合があります。あらかじめ試験塗装を実施し、仕上がりをご確認ください。さらに、ローラーは短毛ローラーにて塗装し、塗装時の希釈率は「0~10%」で塗装してください。(基本的にスプレーでの塗装をおすすめします。)
- 旧塗膜がはく離している場合、はっ水処理と下塗り処理を行ってください。
- 旧塗膜は健全な状態であることを想定しています。

■経年コンクリート面(旧塗膜なし)生地仕上げ

工程	塗料名	塗り回数	使用量 kg/m ² /回	塗り重ね 乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
水洗い	高圧洗浄し、浮き塗膜などは除去し、乾燥した清浄な面とする。						
はっ水処理	ニッペファインブルーガード (ターペン可溶特殊シラン系はっ水剤)	1	0.16~0.20	16時間以上	無希釈	—	ウールローラー エアレススプレー
下塗り	ニッペファインブルーコート (ターペン可溶シリコン樹脂クリヤー塗料)	1	0.12~0.15	4時間以上	塗料用シンナーA	30~40	エアスプレー
中塗り	ニッペファインシリコンフレッシュクリヤー (つや有り)	1	0.12~0.14	4時間以上	塗料用シンナーA	20~40	エアスプレー
上塗り	ニッペファインシリコンフレッシュクリヤー (つや有り~つや消し・カラークリヤー)	1	0.12~0.14	—	塗料用シンナーA	20~40	エアスプレー*

注)上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります。)

- ニッペファインブルーコートやニッペファインシリコンフレッシュクリヤーをローラーにて塗装する場合、つやむら、つやの上昇が発生する場合があります。あらかじめ試験塗装を実施し、仕上がりをご確認ください。さらに、ローラーは短毛ローラーにて塗装し、塗装時の希釈率は「0~10%」で塗装してください。(基本的にスプレーでの塗装をおすすめします。)
- 旧塗膜は健全な状態であることを想定しています。
- ※)つや調整剤では、Pコン部分などで、タマリやダレなどができると、つや調整剤による白化状態が発生する場合がありますので、塗装時は十分ご注意ください。

塗り替え仕様について

経年した外壁の打ち放しコンクリート面は、新設時の打ち放しコンクリート面に比べて雨水、炭酸ガスおよび紫外線などによりコンクリート表面は風化され、塗装下地はポーラス(多孔質)状態になっています。そのため塗料の吸い込みが著しく、下塗り(ニッペファインブルーコート)塗装仕上げ段階で白化状態になる場合があります。「ニッペファインブルーコート」には、濡れ肌防止のための特殊顔料が配合されており、含浸力の高い樹脂分が基材に吸いこまれて表面に特殊顔料分だけが取り残され白化します。)その場合、下塗り塗装後「ニッペファインシリコンフレッシュクリヤーつや有り」を塗り付けし、白化状態がなくなるまで塗りこんでください。

荷 姿

塗料名	色 相	つ や	容 量	塗料液・硬化剤 混合比(質量比)	塗料液・硬化剤混合後の 使用時間(23℃)
ニッペファインシリコンフレッシュクリヤー	透明 カラークリヤー	つや有り、3・5分つや有り つや消し	15kgセット (塗料液12kg硬化剤3kg)	4 : 1	6時間
ニッペファインブルーコート	乳白色	—	15kgセット (塗料液12.5kg硬化剤2.5kg)	5 : 1	6時間
ニッペファインブルーガード	透明	—	14kg	—	—

※カラークリヤーは「ニッペファインシリコンフレッシュクリヤー塗料液」に対し、「ニッペファインシリコンフレッシュ塗料液」を質量比5%まで混合し、混合塗料液と硬化剤を質量比4:1で混合し使用してください。

- 本製品は、すぐれた性能を発揮させるために、非常に敏感で強固な反応をするように設計されています。水やアルコール類が、塗料液や硬化剤に混入しないようにしてください。また、空気中に含まれる水分や湿気とも敏感に反応します。必ず密栓し、冷暗所に保管してください。マスキナーなどの封では不十分です。
- 長期間の保管(6ヶ月以上)は避けてください。また、開栓後はなるべく早く使い切ってください。

注意
点

- シーリング面は、マスキングテープなどで養生を行い、塗装を避けてください。シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、取崩しなどの不具合を起すことがあります。
 - エポキシ樹脂系など汚れた除去で素地の洗浄を行う場合、薬剤(酸、洗剤など)が残らないよう、後水洗は十分に行い、乾燥した清潔な面にしてください。
 - さび汁などがある場合は、サンドペーパーで除去してください。
 - 吸い込みやすい基材では使用量が多くなります。
 - 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
 - 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケト科科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケト科科学社製Hi500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
 - 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
 - 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
 - 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
 - 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
 - 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法を同一にしてください。
 - 汚れ、さびなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
 - 塗料は内容物が均一になるようによくかき混ぜてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、よくかき混ぜて用いて底の沈降物を十分にかき混ぜてご使用ください。
 - 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
 - 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒ししないでください。
- <ファイブプレコート・ファイブシリコンフレッシュクリヤー共通>
- 下塗り材にエポキシ樹脂塗料(ニッパ浸透性シーラー(新)など)は使用しないでください。変色、はく離の可能性ががあります。
 - 経年した外壁の打ち直しコンクリート面への塗装は、劣化が進行しており、コンクリート表面劣化部からはく離するおそれがあります。クラックが発生したり、こすって骨材が落ちたりしているコンクリート劣化部で、必ず試験施工をおこなって付着性を確認してください。
 - 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダシ、かびり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
 - 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
 - 水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
 - 硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。
 - 塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようにご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意

- ください。
 - 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合(高湿度、結露、降雨など)、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
 - 塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりが作業性が低下することがあります。
 - 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がりが不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- <ファイブプレコート・ファイブプレガード共通>
- 上塗り強溶剤系塗料のご使用は避けてください。
- <ファイブシリコンフレッシュクリヤー>
- ローラー及び刷毛塗装で下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
 - つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
 - つや調整品は、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
 - 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈率をまもってください。
 - つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
 - つや調整品では、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜よくかき混ぜながらご使用ください。
 - 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
 - 塗装面を部分補修する際には、硬化剤の入れ忘れにご注意ください。汚染むら発生の原因になります。
 - ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において(巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッパハイガードカチオンフィラー)、ニッパフィラー-200)などで処理してください。(合成樹脂系エマルジョンパテの使用は避けてください。)
 - PCパネル塗装に関しては、PCパネルの扱い方や乾燥養生条件、仕上げ方法など、現場施工とは大きく異なる注意点があります。詳細については、お問い合わせください。
11. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するが、専用でご使用ください。
12. 可塑性が多く含まれる塩ビ鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
13. 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸い込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、バテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- <ファイブプレガード>
- 噴霧粒子を吸い込むと、嘔吐、呼吸困難など身体に変調を及ぼす可能性がありますので、スプレー施工の際は必ず有機溶剤用防毒マスクを着用してください。
 - 作業現場周辺の方が噴霧粒子の吸引をしないようにスプレー施工の際は注意し、必要に応じて対策を実施してください。
 - 表面のこみ、ほこり、エポキシ樹脂系、レイタンスなどは除去し、巣穴、ひび割れ、目違い、ジャンク、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。ただし正常面と異なる色相になることがありますのでご注意ください。また特に大きな巣穴などの場合塗装で十分に保護できないことがあります。

- ニッパファイブプレガードはダレやすいので、むら切りのためにローラーやはけでならしを行ってください。
- 目印は、ウエスで簡単に拭き取れるものを使用し、コンクリートの表面を汚す墨出し、およびきずをつける道具は避けてください。
- はり突き出し部分・木繊維などの除去には、周りをきずつけやすいディスクサンダーを使用しないで、タガネでは取り取ってください。
- コンクリート表面に付着した汚れ・泥土・コンパネ灰汁などは、P180~240のサンドペーパーで除去し、水洗い清掃してください。
- クリヤー仕上げするうえでの望ましいコンクリート面は、(1)均質、均一な打ち直し面が得られること、(2)巣穴、ジャンクがないこと、(3)不陸がないことです。均質、均一な面が要求されるのは、素地の吸い込み差および、面精度の差、材質の差をなくするためです。これらの差によって、発色が異なって色むらが生じます。
- ジャンク欠損部・大きな気泡穴などに用いる補修モルタルは、白セメントとケイ砂を合成樹脂エマルジョン水溶液で混練りして、コンクリート色よりも淡い色に調合してください。
- 補修は見切りの良い部分まで形状を模様となるよう補修してください。補修モルタルとコンクリートでは、吸い込み表面粗度に差があります。補修モルタルは、すべて「カナゴテ」で塗り、平滑に仕上げてください。
- 部分的に点在しているあばた状の凹凸したコンクリート肌は、光の陰で色むらに見えるため、目立つ部分は樹脂入りの白セメントで補修して平滑に仕上げてください。
- コンパネジョイント部の樹脂入り白セメントモルタル補修塗りは、平滑に仕上げないで適宜目違いを付けてください。
- 目立ちやすい直径7mm以上の気泡穴は、樹脂入り白セメントモルタルで塗りつぶし、穴の周りは水を含ませたスポンジできれいに拭いてください。
- 補修材として、「セメントノロ」、「セメントフィラー」などは使用しないでください。また骨材として、パライトなどの軽質骨材は使用しないでください。
- パネルは、面で共用なものにしてください。
- 下地補修のチェック方法は、補修なし、補修ありの両面に水をかけ、なるべく同色になるようにしてください。
- 塗装に際しては、素地へのなじみ具合をみながら、膜厚が均一になるように塗付けてください。
- スポット補修は、色むらやつやむらを起こしやすくなります。足場カゲなど特に留意してください。
- コンクリート生地の色むらの補修などは特殊塗装工事が別途必要です。これらの補修塗装工事は特殊な補修技術を持った専門業者へ依頼してください。
- 素地の吸い込み差、使用量、塗装方法などで仕上げ外観が変わりますので、必ず現場で試験塗料を行い、壁面の仕上げ予測を十分関係調整してください。
- 屋内での作業の際は排気ダクトあるいは送風機などを使用し、室内換気を実施してください。排気装置や送風機を使用する場合、排気出口は外部とし、周囲の人への影響がないが確認ください。
- 有機溶剤を含んでいますので、屋内での作業は換気を充分に行ない、必要に応じ有機溶剤用防毒マスクなどを着用して下さい。

安全衛生上の注意事項

- ニッパファイブシリコンフレッシュクリヤーつや有り塗料液
- 本来の用途以外に使用しないでください。
 - 使用前に取扱説明書を理解して、取り扱ってください。
 - 熱・火花・炎/高温のもののような着火源から遠ざけてください。一禁煙です。
 - 容器を密閉してください。
 - 容器および受器を接地してください。
 - 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用してください。
 - 火花を発生しない工具を使用してください。
 - 粉じん/ガス/蒸気/スプレーなどを吸入しないでください。
 - 必要なとき以外は、環境への放出を避けてください。
 - この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないでください。
 - 取り扱った後は、手洗いおよびうがいを行ってください。
 - 適切な保護手袋/保護眼鏡/保護面罩/保護衣を着用してください。
 - 必要に応じて個人用保護具を使用してください。
 - 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは、医師に連絡してください。口をすすいでください。
 - 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。その後洗浄を続けてください。

- 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けてください。
- 皮膚や髪に付いた場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ取り除いてください。皮膚を流水かシャワーで洗ってください。
- 皮膚に付いた場合、多量の水とせっけんなどで洗ってください。
- 取り扱った後、手を洗ってください。
- 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けてください。
- 直ちに、すべての汚染された衣類を脱いでください/取り除いてください。再使用する場合には洗濯してください。
- 粉じん、蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなったときには、安静にし、必要に応じてできるだけ医師の診察を受けてください。
- 嘔吐したとき、気分が悪いなどの症状がある場合は、医師に連絡してください。
- 緊急の洗浄剤が必要な場合、直ちに特別処置を実施する。
- 火災時には、炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。
- 水を消火に使用しないでください。
- 容器からこぼれたときには、布で拭き取って水を張った容器に保管してください。
- 施設にて子供の手の届かないところに保管してください。

- 横倒禁止**
- 直射日光や水濡れは厳禁です。
 - 積み重ねは3段までとってください。
 - 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も50℃以上の温度に暴露しないでください。
 - 容器はつり上げないでください。やむを得ずつり上げる際には、適切かつり具で、垂直に持ち上げ、落下に十分注意してください。(偏荷重になると取っ手が外れ、落下事故の危険があります。)
 - 内容物/容器を廃棄するときには、国/地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
 - 塗料、塗料容器、塗料器具を廃棄するときには、産業廃棄物として処理してください。
 - 容器、塗料器具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。
- ※上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。
- 詳細な内容、表示例以外の製品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

危険	危険有害性情報
	引火性液体及び蒸気/皮膚刺激/強い眼刺激/吸入すると有害/生殖能又は胎児への悪影響のおそれ 臓器の障害のおそれ(単回ば露)/長期にわたる、又は反復ば露による臓器の障害のおそれ/水生生物に非常に強い毒性 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性